

カトリック仙台司教区・カリタスジャパン 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

大震災復興支援の動きは、多岐にわたっています。ベースでボランティアとして活動に参加して下さったのが土台としてありますが、今回は、被災地各地と東京近郊の方々と結ぶ「ふれあいフェスタ」と、被災地に住んで、共に生活することによって何かお役に立ちたいと、修道院が福島県南相馬に開設されたことのお知らせ、さらに、被災者であるフィリピンの女性たちが、介護ヘルパー2級の資格をとって、日本人のご老人のお手伝いをする事で、感謝の心を現したいとながっているその第一歩を歩み始めたことをお伝えいたします。

ボランティアの皆さま ありがとうございます！ カリタスジャパン 厚生労働大臣感謝状を受賞

4月25日、宮城県庁において、宮城県内で東日本大震災における被災者の支援活動を、約2年間にわたり行ってきた団体・企業に対し、厚生労働大臣からの感謝状が伝達されました。

宮城県内の市町村から、「この団体は、私たちのためにこんなに働いてくださっている、ぜひ感謝状をあげてほしい！」と申請があり、今回の授賞式となったものです。その中に、カリタスジャパンも選ばれたということは、大変うれしいことでした。

というのは、石巻、米川、南三陸などで行っているカリタスの活動が認められたからです。

カリタスの活動と一口で言っても、多岐にわたっています。

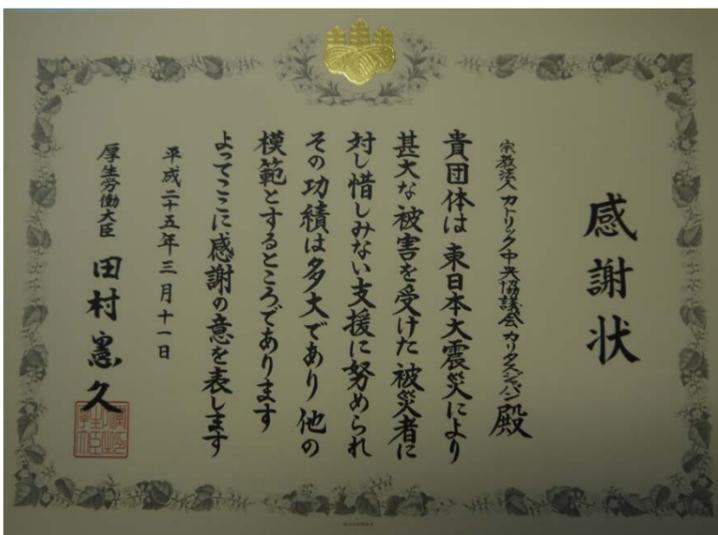
石巻ベースでは、市内の方々にある仮設住宅のみならず、東松島の仮設住宅でも、定期的にお茶っこを開き、被災を受けた方々の心の支えとなっています。ベースの1階のフリースペースでは、毎日、いろいろな方が訪ねてくださり、地域の中に溶け込ん



だベースとして、利用されています。

米川（南三陸）ベースでは、南三陸の社会福祉協議会、ボランティアセンターと協力し、瓦礫撤去、漁業・農業支援活動、仮設住宅でのお茶っこ活動を行っています。

今でも瓦礫撤去があるの？と驚かれる方もいらっしゃるかもしれませんが、それがあつたのです。先日は、丘や、山の中にも津波で流されていった瓦礫を取り除きました。山の中には重機は入りません。ただひたすら、人海戦術で、ボランティアさんがバケツリレーで運び出しました。



漁業支援は、すべてを流された漁師さんに、全国の漁師さんから、使っていない網が送られてきました。その網を南三陸の海に合わせた

長さに切ったり、重しを付け替えたりというお手伝いから、養殖用に、ほや、わかめなどの種付けを手伝ったり、漁師さんが収穫したわかめ、めかぶを並べたり、切ったりと、様々なお手伝いを続けています。

農業支援は、津波により塩水をかぶり、使えなくなった農地の再生のために、土を運び出し、新しい土を入れ、石を取り除き、畑とする作業です。

これらの活動は、すべて全国から石巻や米川（南三陸）に来て、ボランティアをして下さった方々が力を貸して下さったから継続されていることです。そして今回、ボランティアに参加して下さった皆さまの働きが認められ、感謝状を受賞できたものと思います。

サポートセンター長補佐の小松史朗神父が出席し、皆さまに代わって感謝状をお受けいたしました。

**ボランティアの皆さま、ありがとうございます！
これからも、どうぞよろしくお願いします！**

ボランティアさん 募集中です！

各カリタスベースでは、ボランティアを募集しております。

仙台教区サポートセンターでは、7月分までのボランティアお申込を受付中です。（8月分のお申込は、6月16日(日)からです。）

また、米川ベースにおいては、7月13日から8月31日までを、「夏休み期間」と設定して、この期間の高校生以上の学校・団体様からのお申し込み受付をすることにいたしました。参加人数等に条件がございますので、詳細は『カリタスジャパンブログ』をご覧ください。

個人でのお申込の場合は、これまで通り変更はございません。6月分のお申し込みも現在のところ、まだまだ少ない状況です。どうぞご協力をよろしくお願いします。多くの皆さまのお申込・ご参加をお待ちしております。

※石巻ベースでは、夏休み期間の団体受け入れはいたしません。
※他のカリタスベースにつきましては、各ベースやお申込窓口までお問い合わせください。

**学生の皆さん、夏休み期間中に一度、
ボランティア活動に参加してみませんか？**

米川ベース 農業支援活動の様子



石巻ベースでの活動風景

「共に住む」ために来ました

私たちマリアの宣教者フランシスコ修道会（FMM）は、この春、福島県南相馬市原町区に3人だけの小さな修道院を開設いたしました。東日本大震災で被災した方々と「共に住む」ことで、何かお役に立てることがあればさせていただきたいと思っています。教会に近い所にと希望しておりましたが、7キロ程離れたところに住むことになりました。3人が1台の車で動くというのは不自由なこともあります。大家さんご夫妻がとても親切で、私たちを友人や近所の方々にご紹介して下さい、おかげさまで、少しずつ近所の仲間に入れていただいています。



FMM 原町修道院での初めてのミサ

避難を繰り返したために勉強が遅れてしまった中学生の学習支援を依頼されて、早速開始しました。また、この地域では、若い世代が被曝を恐れて避難してしまい、比較的高齢の方々が多く残っていて、町には適当な娯楽がなく、家の中に引きこもりがちになることも分かってきました。そして、ご近所の方々と集まって映画を見たり、一緒にお茶を飲んだりして気晴らしをしようという話も出て来ました。私たちが町の中ではなく、山に近い、放射線量が高いと思われる地域に導かれたのは、この方々と仲間になるためだったのだと思うようになってきました。

私たちが、地域の方々とお仲良くなっていけるよう、皆様のお祈りをよろしくお願いいたします。



ミサ後のお茶：信徒ではない大家さんご夫妻も

この強力な助け手のお名前は、Sr.小沢、Sr.佐々木、Sr.重藤です。彼女たちの活躍が期待されます。

亘理教会 介護ヘルパー2級 合格証書授与式

4月27日(土)、宮城県南4教会の1つ、亘理教会は、朝から嬉しくてたまらないという感じの笑みを浮かべた人々の出入りで、明るい雰囲気を作っていました。この日は、「介護ヘルパー2級」の資格を取得する15人のフィリピンから来た「お母さん」たちへ、合格証書が授与される晴れの日だったのです。

10時30分から、エドガー・ガクタン神父により、「感謝のためのミサ」が捧げられました。15人のフィリピンの「お母さんたち」とその知人たち、ご主人や子どもたち、亘理教会の信徒会長さんや信徒たちも参加し、賑やかにミサが始まりました。エドガー神父は説教の中で、「今、皆さんが聞いた今日のヨハネの福音で、イエス様は、『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの掟です』とおっしゃいました。これは、新しい掟と呼ばれています。皆さんは介護ヘルパーになりました。このイエス様の愛の掟を実行してください」と話され、参加者は、大きくうなずいていました。



彼女たちは、約1年、このために勉強を続けてきました。最初は月1度だった勉強会も、回を重ねるごとに、月2回になり、12月からは毎週1回になりました。2月に入り、実習も加わり、実際に施設に行き、介護実習をしました。

勉強の場所も、丸森、角田、亘理と、その時々で集まるのも大変でした。また、ほとんどの人は、日本語は読んで話せるのですが、書くことができませんでした。ですから、介護実習の後で、書かなければならない報告書については、彼女たちみんなが口をそろえて、「初めて、日本語で書きました。これが一番大変でした」と言います。

ある人は、「私が報告書を書くために、ウーンウーン…唸っていると、主人が『そんなに苦しいんだったら、やめたら』と言うので、私は『始めたことだから、チャレンジする』と答えました。今は、続けていて本当に良かったとつくづく思います。うれしい!」と喜びを表していました。



彼女たちの苦しみであった実習報告書の陰には、彼女たちみんなが先生と慕う亘理教会信徒の「高田先生」、CTVCの「山崎先生」それに、滞日外国人支援センターの「愛子先生」の親身な働きがありました。

修了書を一人ひとりに手渡したハルノコー神父は、「皆さんは、この勉強だけではなく、家事もこなし、仕事もち、よく頑張りましたね。この介護ヘルパーという仕事は、人のために役立つための免許です。これからも感謝の心を忘れずにお世話する人に接しましょう」と話し、一人ひとりの手に修了書を渡し、握手をし、努力を称えました。その後は、場所をホールに移し、各自手持ちのフィリピン料理で喜びと感謝をあらわしていました。

東日本大震災 復興支援ふれあいフェスタ 東北からわたしたちへ わたしたちから東北へ

5月11日(土)、東京都渋谷区広尾の聖心インターナショナルスクールにおいて、「東日本大震災 復興支援ふれあいフェスタ」が午前10時から、午後4時まで開催されました。この企画は、カトリック東京ボランティアセンター(CTVC)内に組織された「復興支援ふれあいフェスタ実行委員会」が主催、共催は聖心女子大学、後援はカトリック渋谷教会という形で準備され、開催されたものです。



準備などについて説明をするスタッフ 山崎さん(左)

メイン会場は、聖心インターナショナルスクールのグラウンド。グラウンド内の周囲に、出展団体のテントが、ほぼ三方を取り囲む形で立てられており、大きく、「活動紹介エリア」と「グルメ市エリア」に分かれて並べられていました

出展団体は、活動紹介・物販に18団体。グルメ市には12

団体で計30団体が参加しました。スタッフとボランティアをあわせて330人が、いらっしゃるお客様を迎えました。

会場は、メインのグラウンド以外に、カフェテリアでは、支援のために売られている「たけのこご飯」や「芋煮」、「パン」などを買って、食事をしたり、展示物を見たりできるようになっており、部屋の周囲のボードには、各団体のポスターや写真などが貼られていました。AVルームでは、11時から、映画やミニコンサート、講演会が行われ、楽しい催しを盛り上げていました。



「前日まであんなに晴れていたのに」とスタッフが嘆いたように、当日は朝から雨。準備は朝8時から始まったのですが、参加する各団体も、雨のため、計画通り、スムーズに運ぶというわけにはいきませんでした。それでも、9時半には、どの団体も準備が整い、お客様を待つばかり、

という状態にもっていきことができました。

仙台教区サポートセンターのコーナーは、カリタスジャパンとカリタス米川ベースと1つのテントでした。お隣のテントには、カリタス釜石が、同じエリアには、カリタス原町ベース、福島やさい畑、福島デスク、白河みみずく、いわきサポートステーションもみの木、CTVCなどがありました。

グルメ市エリアでは、カリタス

米川ベースが「めかぶしゃぶしゃぶ」「わかめしゃぶしゃぶ」を食べていただき、「初めて、食べました」という方が多く、「やわらかくて、おいしいものですね」と驚きの声をあげる人が大勢いらっしゃいました。

米川ベースからは、スタッフの荒川さんが参加しましたが、東京近郊から米川にボランティアに来てくださった方々に声をかけ、高校生や大学生が15人、お手伝いに来てくださいました。カリタス釜石は、伊瀬さん、小笠原さんというスタッフの他、17人のボランティアが集まってくださいました。

このように、どこのテントもボランティアの方々が大勢集まり、雨も吹き飛ばすくらいの活気に充ち満ちていました。ボランティアの方々は、何れ所ものベースで奉仕活動をした経験のある人が多く、あちこちで「やあ、やあ」と旧交を温めているシーンが見られました。

多くのボランティアさんに、お手伝いいただきました！



仙台教区サポートセンターでオリエンテーションを受けて、ボランティアに行ってくださいました方々が、サポートセンターのテントに次々に立ち寄ってくださったのも、うれしい驚きでした。

「渋谷区のお知らせで見たので来ました」という女性の方は、「私は出身が岩手なので、このようなお知らせがあると、自然に足が向いてしまうのですよ」と言いながら、米川ベースの「わかめ」や「ふのり」を買って行かれました。

大雨にたたられたとはいえ、約500人の参加者が、被災地からやってきた人々、そこで、ボランティアをしている人々、そのOB・OGたちと、直接話し合える場、被災地について尋ねる場があったことが、被災地と支援者を実際に結びつける大きな成果があったと、参加者から評価されました。

同時に、「次回も期待しています」という参加者の声を聞き、毎年一度、この「復興支援ふれあいフェスタ」を行おう、ということが、実行委員会で決定したそうです。

来年は、ぜひ、皆さまのご参加をお待ちしております。

6月 石巻ベース活動予定

石巻ベースには、継続して支援して下さるグループ、どんな支援ができるのかを考えてくださっているグループがあります。また、仙台市内から比較的近いこともあり、仙台在住の方が、定期的に日帰りでの活動をしてくださいます。

これからも小さな交わりを地道に継続していくことを大事にしていきたいと考えています。いろいろ形で被災地に関わり、支えることができますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

《6月予定表》

- ・4日「復興首飾り」作り 横浜教区藤が丘教会グループ開催予定
- ・7日「押し花コースター&ランチョンマット」作り 東京いのちの電話グループ開催予定
- ・14日、15日 スモールクワイヤーのコンサート イエスのカリタス会「スモールクワイヤー」が、仮設住宅とベースでコンサートを行う予定
- ・上旬 サルビアとベゴニアの花壇作り(ベース、大街道沿い花壇)
- ・15日～ 大瓜仮設住宅「お茶会」 他団体が撤退したため、住民の方からの「お茶会」要望があり、15日に初めて伺い、「お茶会」予定。住民の方々と関わりながら、コミュニティづくりのお手伝いができたらと思う。

6月 米川ベース活動予定

米川ベースでは、現在、「農業支援」、「漁業支援」、「瓦礫撤去」、「地域支援」を主な活動としています。活動の幅が広がってきている中で、6月にイベントの予定もありますが、ボランティアさんが減少しているため、必要人員の確保や日程等の調整に苦慮しているところです。

特に平日、ボランティアさんが全くいない日も出てきました。米川ベースでのボランティア活動にご協力をよろしく願います。皆さんのご参加をお待ちしています。

※朝から丸1日活動していただければ、日帰りでの参加も可能です。ボランティア活動に関心のある方は、お気軽に仙台教区サポートセンター(022-797-6643)までお問い合わせください。



南三陸町は、まだまだ復旧・復興の途中です。皆さんのお力をお貸し下さい！